

次の100年も・・・ここに商工会!!

●第124回(平成22年度第1回)●

# 中小企業景況調査報告書

栃木県商工会地区

平成22年4月～6月・報告

平成22年7月～9月・予想



栃木県商工会連合会



# 目 次

	頁
1. 栃木県産業全体の景況概要	3
栃木県と全国の業況DI推移を比較 ・ 図 1	
県内産業別の業況DI推移を比較 ・ ・ 図 2	
2. 製造業の景況	4
主要景況項目の推移	・ ・ ・ 図 3
売上額(加工高)の状況	・ ・ ・ 図 4
採算(経常利益)の状況	・ ・ ・ 図 5
設備投資の状況	・ ・ ・ 図 6
経営上の問題点	・ ・ ・ 図 7
3. 建設業の景況	7
主要景況項目の推移	・ ・ ・ 図 8
売上額(完成工事高)の状況	・ ・ ・ 図 9
採算(経常利益)の状況	・ ・ ・ 図 10
設備投資の状況	・ ・ ・ 図 11
経営上の問題点	・ ・ ・ 図 12
4. 小売業の景況	10
主要景況項目の推移	・ ・ ・ 図 13
売上額の状況	・ ・ ・ 図 14
採算(経常利益)の状況	・ ・ ・ 図 15
設備投資の状況	・ ・ ・ 図 16
経営上の問題点	・ ・ ・ 図 17
5. サービス業の景況	13
主要景況項目の推移	・ ・ ・ 図 18
売上額(収入高)の状況	・ ・ ・ 図 19
採算(経常利益)の状況	・ ・ ・ 図 20
設備投資の状況	・ ・ ・ 図 21
経営上の問題点	・ ・ ・ 図 22
6. 調査対象事業所の内容	16
参考 中小企業基盤整備機構 第120回 中小企業景況調査 ニュースリリース	
[中小企業の業況判断DIの推移]	17

## ○DI指数とは

本文中やグラフ中に登場するDI値とは、ディフュージョン・インデックス(景気動向指数)の略であり、各調査項目についての増加(上昇・好転)企業割合から減少(低下・悪化)企業割合を差し引いた値を示すものである。

例えば、売上額で増加企業が50%、不変企業が30%、減少企業が20%の場合、DI指数は $50 - 20 = 30$ となり、売上額に対して強気の度合いを表している。

## [ 調 査 要 領 ]

### ○調査の目的

中小企業景況調査は、全国の商工会地区に地域経済観測点を設置して、地域の産業の状況等地域の経済動向等について、一定時期ごとに変化の実態諸情報を収集、提供して、経営改善普及事業の実施に資するものとする。

本報告書は、栃木県内商工会地区における、「製造業」「建設業」「小売業」「サービス業」の業種を、主要景況項目（売上額・原材料仕入単価・採算・資金繰り）から分析し、景況情報をまとめたものである。

### ○調査対象地区

栃木県下の10商工会地区

にのみや・益子町・石橋・岩舟町・塩谷町

喜連川・那須塩原市・那須町・佐野市あそ・足利市坂西

### ○調査対象

対象企業数：上記商工会地区の150企業（1商工会15企業）

回答企業数： 150企業（回答率100.0%）

### ○調査時点

平成22年6月1日

### ○調査対象期間

平成22年4月～6月期の実績及び、平成22年7月～9月期の見通しについて調査。

### ○調査方法

商工会の経営指導員による訪問調査。

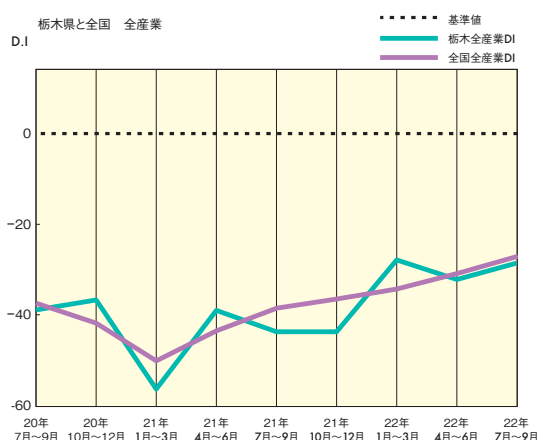
### ○回答企業数内訳

産 業	回答企業数	構成比 (%)
製 造 業	30	20.0
建 設 業	27	18.0
小 売 業	40	26.7
サ ー ビ ス 業	53	35.3
合 計	150	100.0%

# 1. 栃木県産業全体の景況概要

〈栃木県と全国の業況D I 推移を比較〉

「D I 値はやや低下するも全国業況と同水準」 (前期比季調済) 図 1



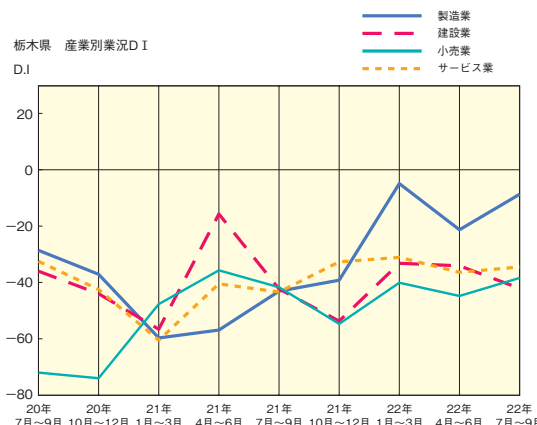
中小企業の業況は、持ち直しの動きがみられるが、動きが弱い業種もあり、依然として厳しい状況にある。なお、栃木県内の業況D I は、-32.1ポイントと前期 (-27.8ポイント) と比べ4.3ポイント低下、全国業況 (-34.2ポイント → -30.8ポイント) とほぼ同じ業況となった。

来期見通し (7月~9月) では、全国業況および栃木県業況ともに、D I 値がやや上昇すると予想している。

※全国業況D I は、独立行政法人中小企業基盤整備機構が公表するニュースリリースから、栃木県業況D I は、商工会議所・中小企業団体中央会が実施する中小企業景況調査を含めた値を利用してグラフ化した。それぞれ調査時点は同日である。

〈県内産業別の業況D I 推移を比較〉

「全ての業種で業況は低下」 (前年同期比) 図 2



「製造業」前期比-16.4ポイント、「建設業」-0.9ポイント、「小売業」-4.7ポイント、「サービス業」-5.3ポイントと全業種においてD I 値が低下するものの、近年の最悪値H21.1~3月期 (リーマンショックの影響) からは改善基調で推移している。

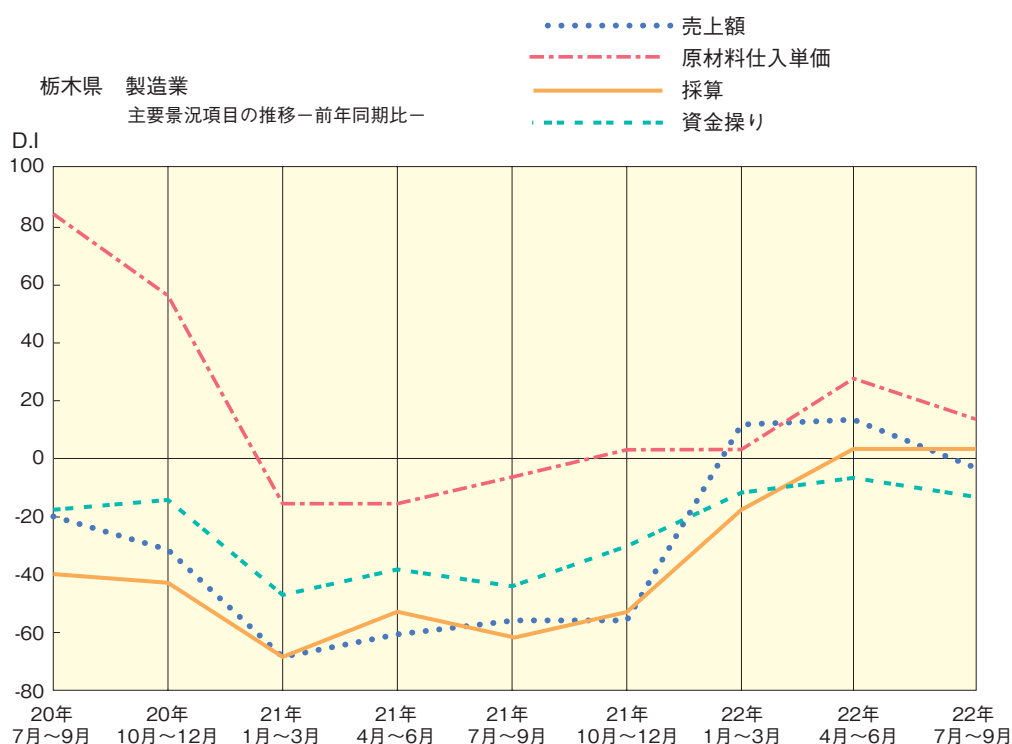
来期見通しでは、「建設業」を除く業種では上昇を予想している。

## 2. 製造業の景況

—主要景況項目の推移—

「採算のD I 値が上昇（プラスに転じる）H18. 10～12期以来」

製造業 主要項目の推移（前年同期比） 図3



「売上額(加工高)」は、前期からさらに増加し、D I 値は13.4ポイントと2期連続のプラスポイントとなった。また「採算(経常利益)」は、+21.0ポイント(-17.7ポイント→3.3ポイント)とH18. 10～12期以来プラスに転じており、改善基調となっている。

「資金繰り」も+5.1ポイント(-11.8ポイント→-6.7ポイント)好転している。なお「原材料仕入単価」は、大きくプラスとなっている。(3.1ポイント→27.6ポイント)

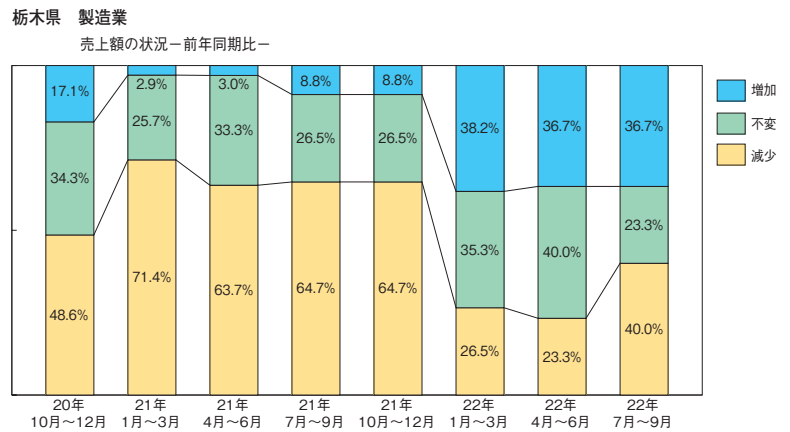
来期見通しでは「売上額(加工高)」は減少、「採算(経常利益)」は横ばいを予想している。

—売上額(加工高)—

売上額(加工高)の状況(前年同期比) 図4

今期D I値の内訳を見ると、減少企業が23.3%、増加企業が36.7%で、D I値は13.4ポイントであった。前期と比べ、1.7ポイント上昇した。

来期の見通しは、売上減少と予想する企業が増え(23.3%→40.0%)、D I値は低下の予想だが、前々期から改善基調といえる。

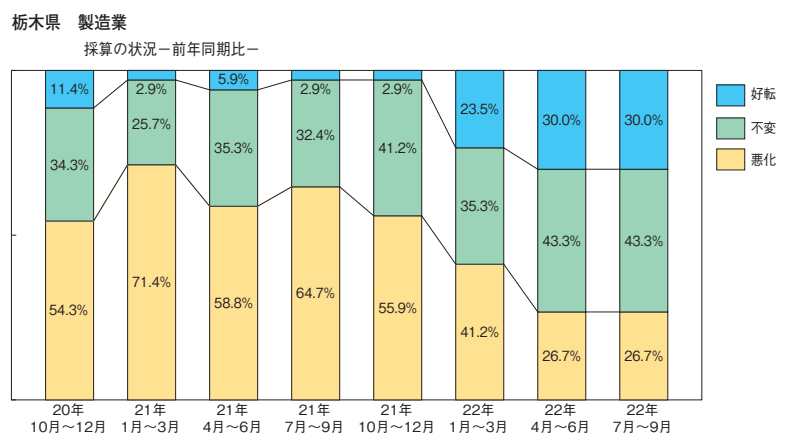


—採算(経常利益)—

採算(経常利益)の状況(前年同期比) 図5

今期D I値の内訳を見ると、悪化企業が26.7%、好転企業が30.0%で、D I値は3.3ポイントであった。前期と比べ、21.0ポイント上昇した。

来期の見通しは、今期と同値となっている。

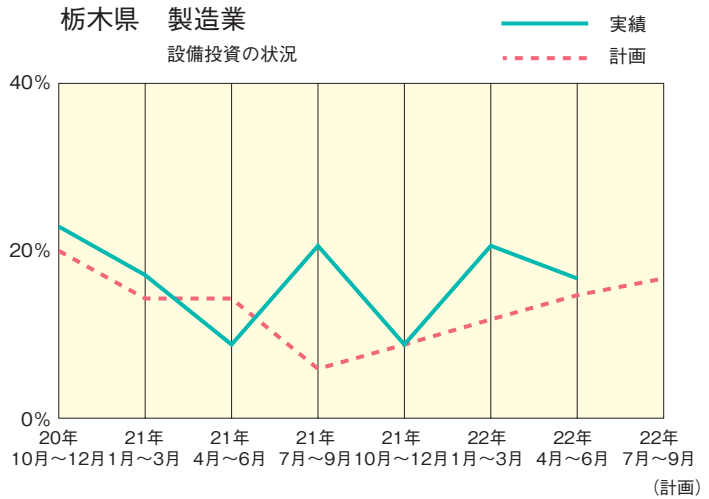


―設備投資の状況―

設備投資の状況 図6

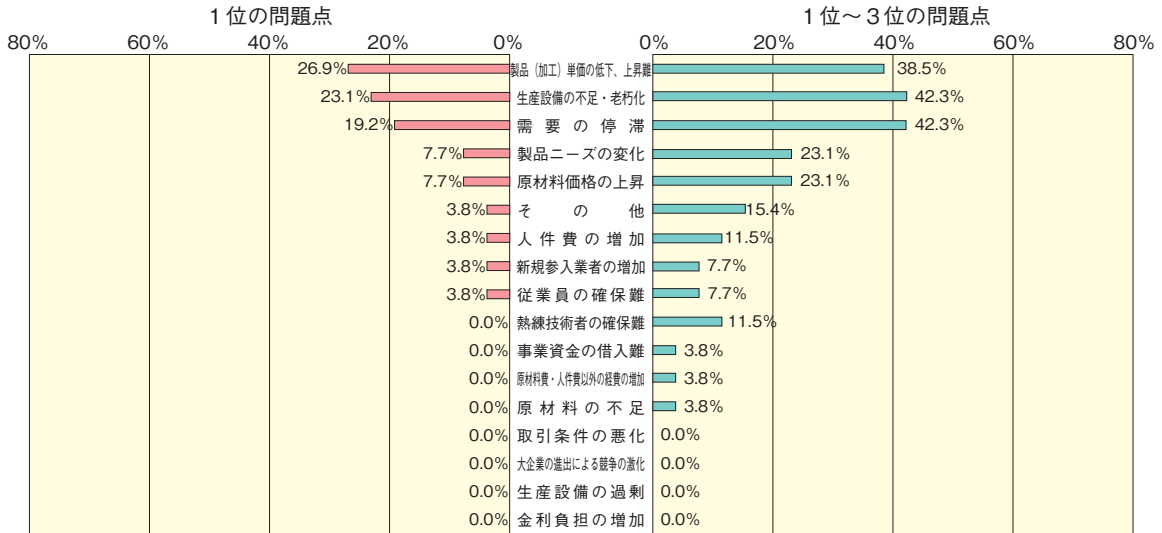
今期の設備投資の状況は、計画していた企業割合14.7%に対し、実績は16.7%であった。

来期に設備投資を計画している企業は16.7%である。



―経営上の問題点―

栃木県 製造業 経営上の問題点の状況 図7



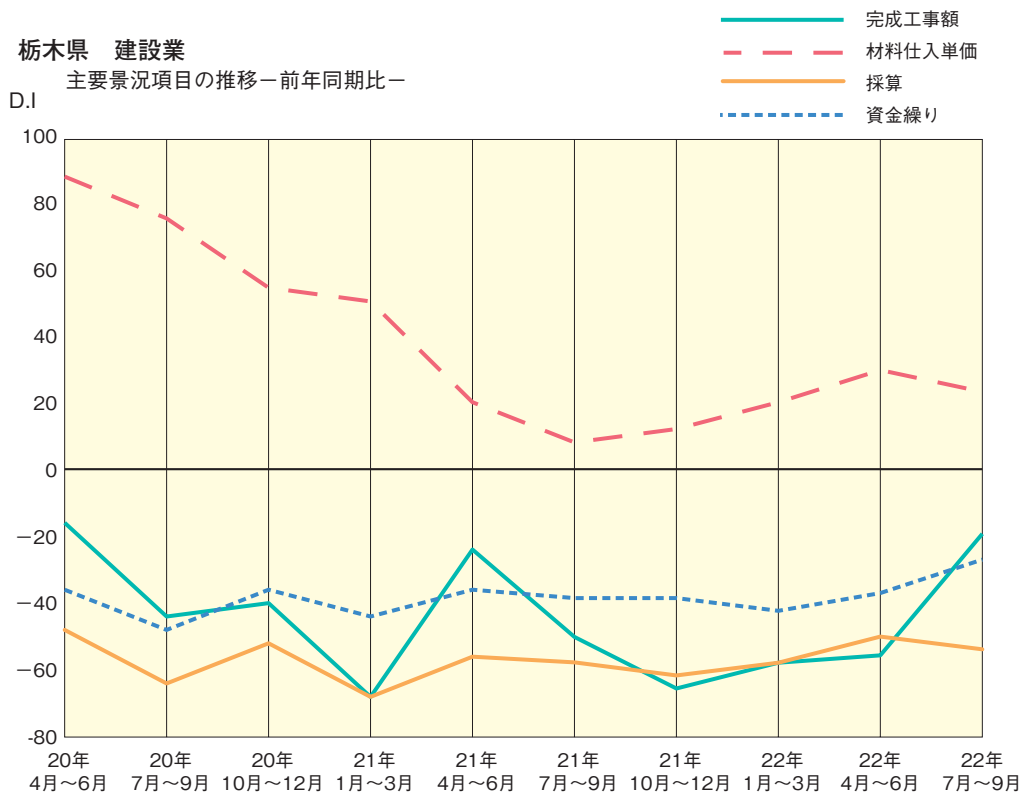
1位の問題点を見ると、「製品(加工)単価の低下、上昇難」が最も多く26.9%となっている。また、「生産設備の不足・老朽化」「需要の停滞」が上位に挙げられている。

### 3. 建設業の景況

—主要景況項目の推移—

「やや持ち直しの動きがあるものの、弱い動きで厳しい現状」

建設業 主要項目の推移（前年同期比）図8



「売上額(完成工事額)」は前期比+2.3ポイント(-57.8ポイント→-55.6ポイント)、「採算(経常利益)」は前期比+7.8ポイント(-57.8ポイント→-50.0ポイント)、動きは弱いものの2期連続の上昇となった。

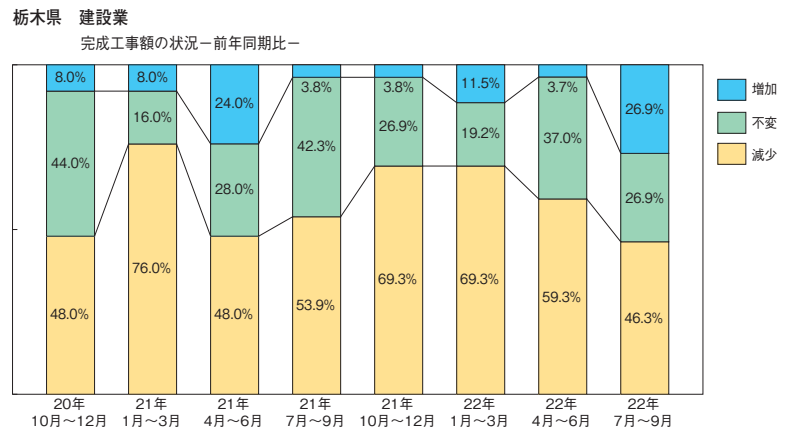
来期見通し(DI値)では「売上額(完成工事額)」は増加(-55.6ポイント→-19.3ポイント)となっている。また、「資金繰り」は3期連続好転の予想であり、持ち直しの動きは見られるものの、「原材料仕入単価」の上昇傾向と請負単価の低下などから「採算(経常利益)」はやや悪化(-50ポイント→-53.8ポイント)とみており、業界の厳しい状況が伺われる。

—売上額(完成工事高)—

売上額(完成工事高)の状況(前年同期比) 図9

今期D I 値の内訳を見ると、減少企業が59.3%、増加企業が3.7%で、D I 値は-55.6ポイントであった。前期と比べ、2.2ポイント上昇した。

来期の見通しは、売上増加と予想する企業が大きく増え(3.7%→26.9%)、D I 値は上昇するとみている。

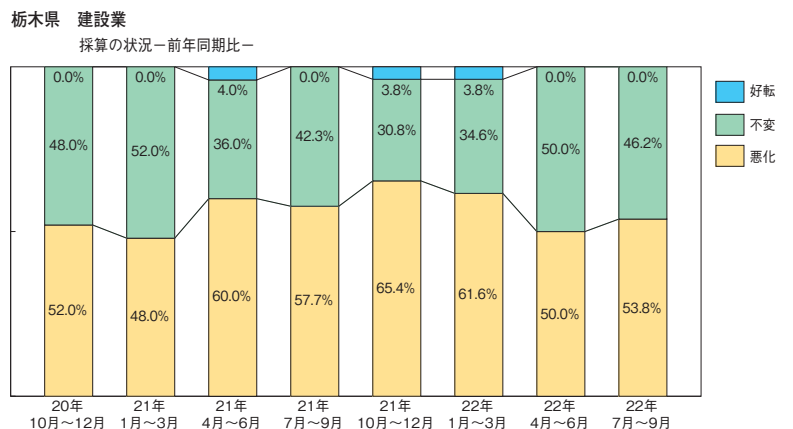


—採算(経常利益)—

採算(経常利益)の状況(前年同期比) 図10

今期D I 値の内訳を見ると、悪化企業が50.0%、好転企業が0.0%で、D I 値は-50.0ポイントであった。前期と比べ、7.8ポイント上昇した。

来期の見通しは、採算悪化と予想する企業が増えることにより(50.0%→53.8%)、D I 値は低下(前期比-3.8ポイント)するとみており、業界の厳しさがうかがえる。

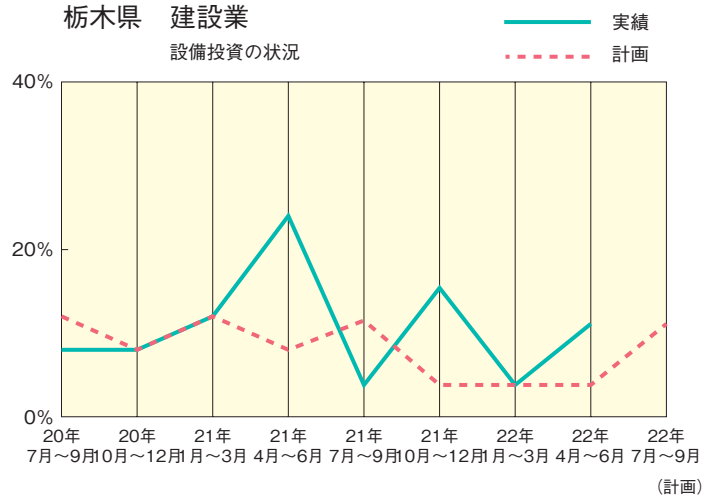


—設備投資の状況—

設備投資の状況 図11

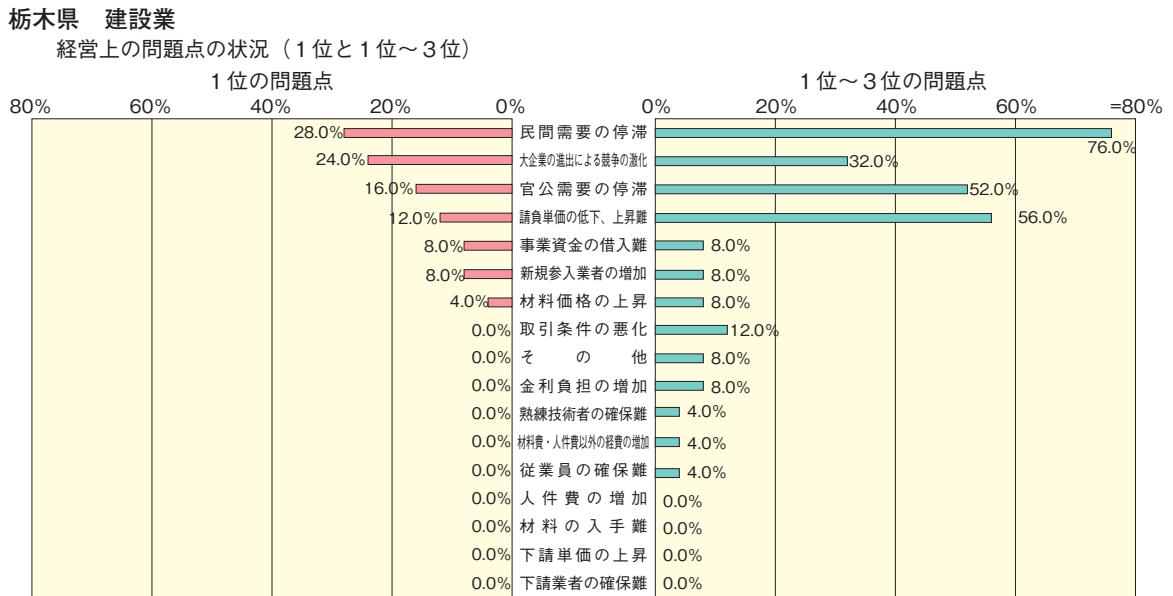
今期の設備投資の状況は、計画していた企業が3.8%、実績は11.1%であった。

来期に設備投資を計画している企業は11.1%である。



—経営上の問題点—

経営上の問題点の状況 図12



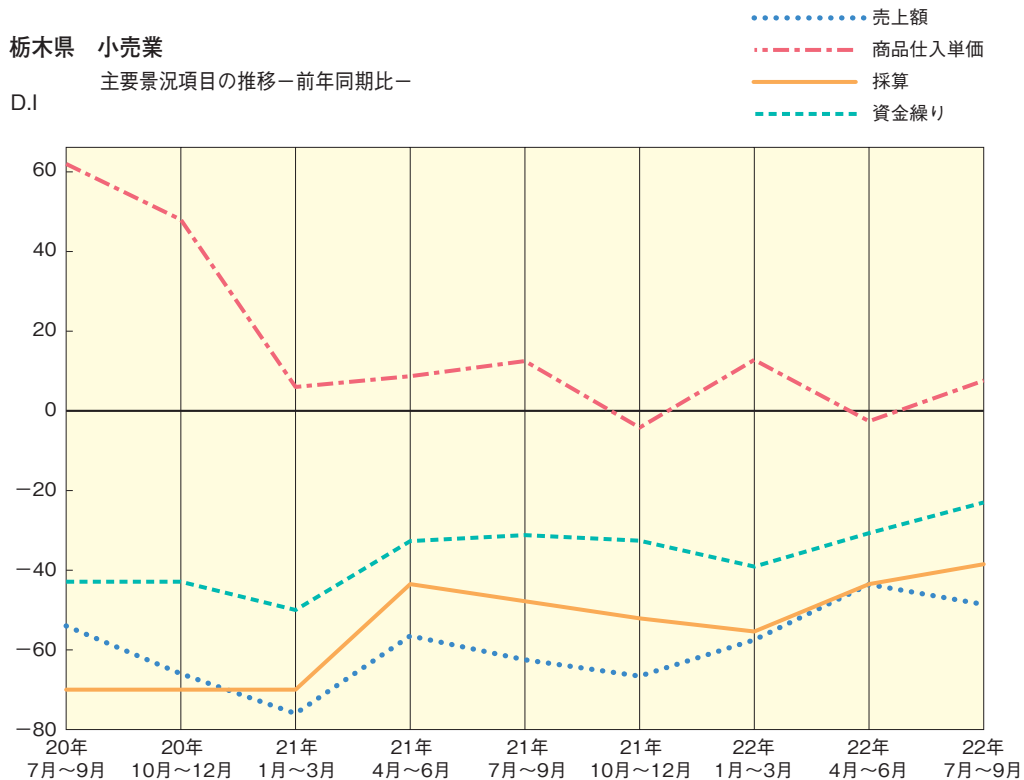
1位の問題点では、「民間需要の停滞」が挙げられた。また、1位～3位の問題点をみても「民間需要の停滞」は76%が問題点と考えている。

## 4. 小売業の景況

—主要景況項目の推移—

「持ち直し基調であるものの、弱い動きで厳しい現状」

小売業 主要項目の推移（前年同期比）図13



「売上額」は前期比+13.9ポイント（-57.5ポイント→-43.6ポイント）、「採算（経常利益）」は+11.9ポイント（-55.4ポイント→-43.5ポイント）、「資金繰り」+8.4ポイントD I値が上昇（マイナス幅が縮小）した。

来期見通し（D I値）では、「売上額」はやや減少、「採算（経常利益）」「資金繰り」はやや好転すると予想している。

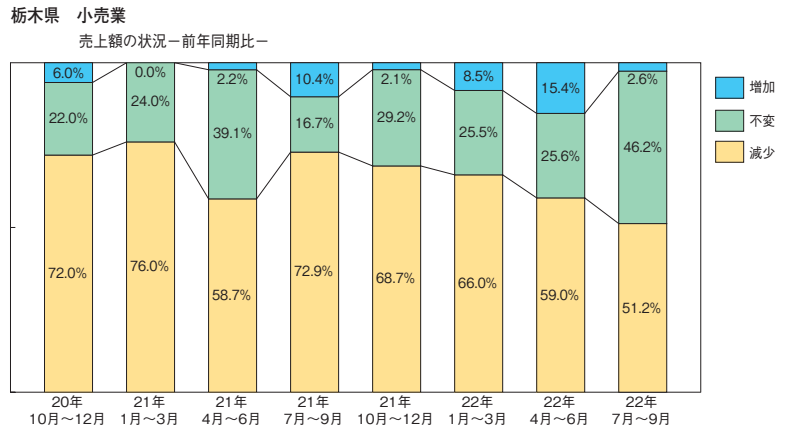
「商品仕入単価」は低下（-15.4ポイント）、来期見通しでは、再び上昇すると予想している。

—売上額—

売上額の状況（前年同期比）図14

今期D I 値の内訳を見ると、減少企業が59.0%、増加企業が15.4%で、D I 値は-43.6ポイントであった。前期と比べ、13.9ポイント上昇した。

来期の見通しは、売上減少と予想する企業が減るものの(59.0%→51.2%)、増加企業も大幅に減り(15.4%→2.6%) D I 値は低下、依然として厳しい状況にある。

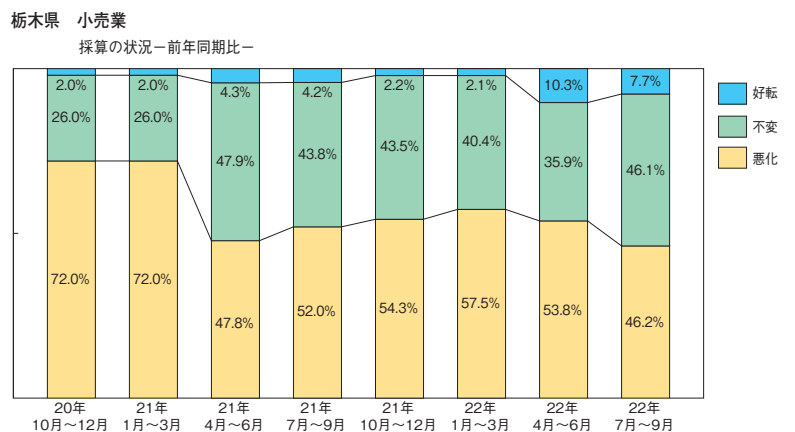


—採算(経常利益)—

採算(経常利益)の状況（前年同期比）図15

今期D I 値の内訳を見ると、悪化企業が53.8%、好転企業が10.3%で、D I 値は-43.5ポイントであった。前期と比べ、11.9ポイント上昇した。

来期の見通しは、採算悪化と予想する企業が減るものの(53.8%→46.2%)、好転企業も減り(10.3%→7.7%)、ややD I 値は上昇(前期比+5.0ポイント)するとみている。



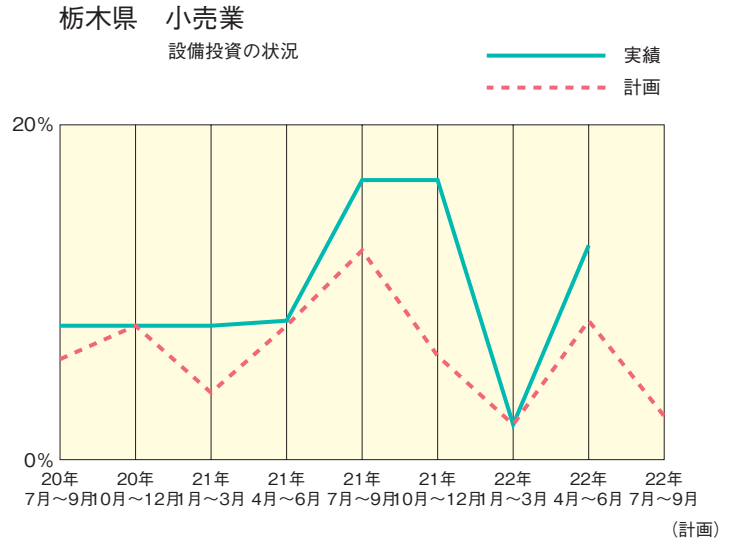
—設備投資の状況—

設備投資の状況

図16

今期の設備投資の状況は、計画していた企業割合8.3%に対し、実施割合は12.8%であった。

来期に設備投資を計画している企業は2.6%である。



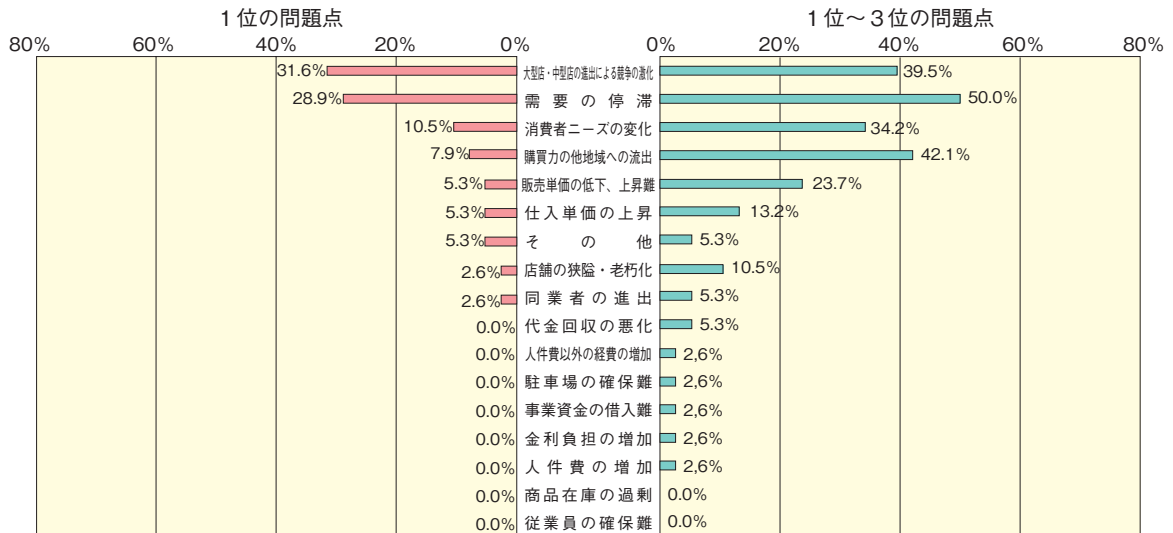
—経営上の問題点—

経営上の問題点の状況

図17

栃木県 小売業

経営上の問題点の状況 (1位と1位～3位)



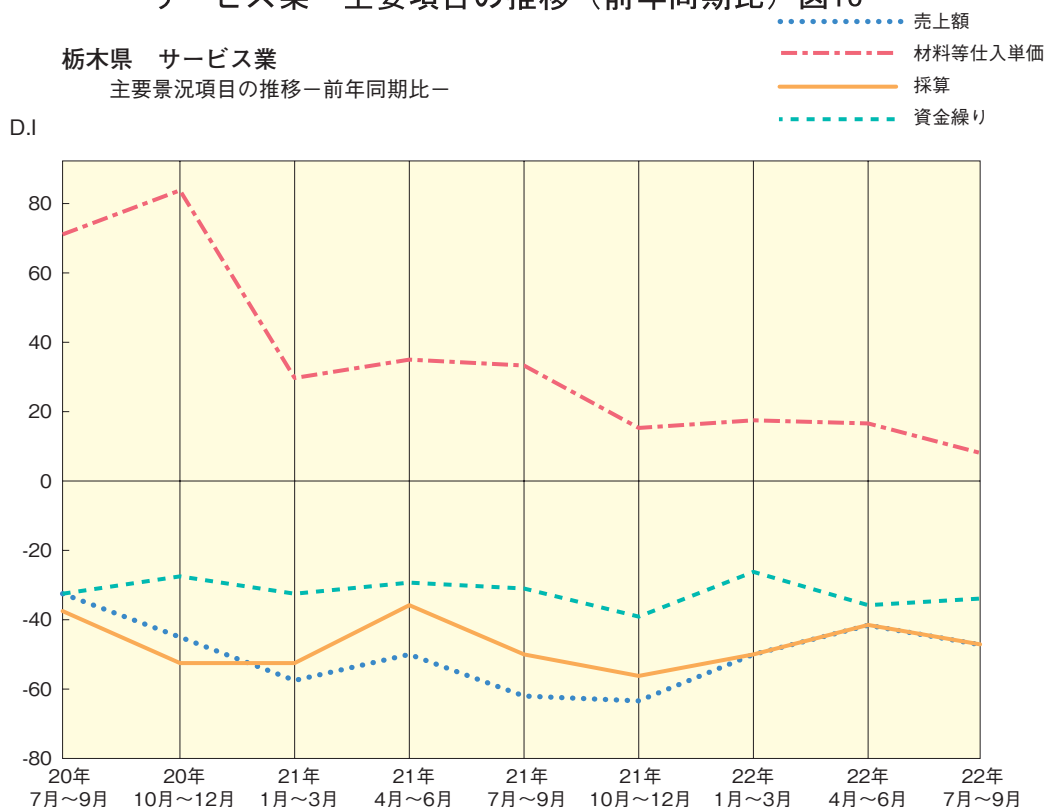
1位の問題点を見ると、「大型店・中型店の進出による競争の激化」がトップに挙げられる。また、1位～3位の問題点を見ると、「需要の停滞」「購買力の他地域への流出」が続いている。

## 5. サービス業の景況

—主要景況項目の推移—

## 「売上額・採算のD I 値が2期連続上昇」

サービス業 主要項目の推移（前年同期比）図18



「売上額」は前期比+8.4ポイント（-50.0ポイント→-41.6ポイント）、「採算（経常利益）」は前期比+8.5ポイント（-50.0ポイント→-41.5ポイント）、動きは弱いものの2期連続の上昇となった。

来期見通し（D I 値）では、「売上額」「採算（経常利益）」はやや減少、「資金繰り」はやや好転すると予想している。

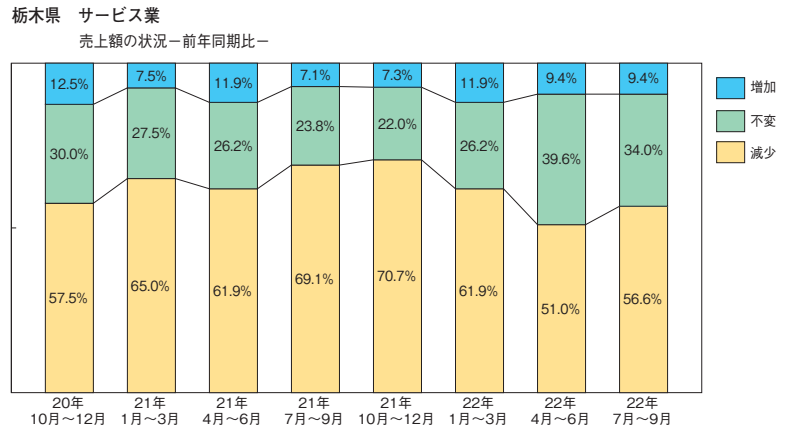
「商品仕入単価」は低下（-0.9ポイント）、来期見通しでは、さらに低下すると予想している。

## —売上額(収入高)—

売上額(収入高)の状況(前年同期比) 図19

今期D I値の内訳を見ると、減少企業が51.0%、増加企業が9.4%で、D I値は-41.6ポイントであった。前期と比べ、8.4ポイント上昇した。

来期の見通しは、売上減少と予想する企業が増え(51.0%→56.6%)、売上増加と予想する企業は同数にとどまるため、(9.4%→9.4%)、D I値はやや低下(前期比-5.6ポイント)するとみている。

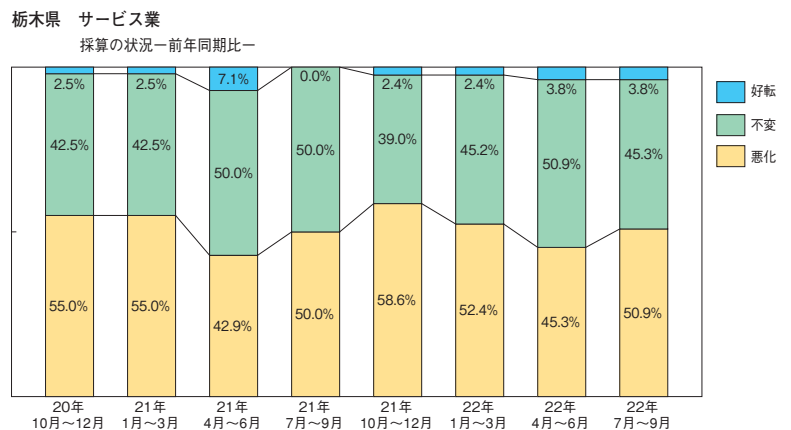


## —採算(経常利益)—

採算(経常利益)の状況(前年同期比) 図20

今期D I値の内訳を見ると、悪化企業が45.3%、好転企業が3.8%で、D I値は-41.5ポイントであった。前期と比べ、8.5ポイント上昇した。

来期の見通しは、採算悪化と予想する企業が増えることにより(45.3%→50.9%)、D I値はやや低下(前期比-5.6ポイント)とみている。

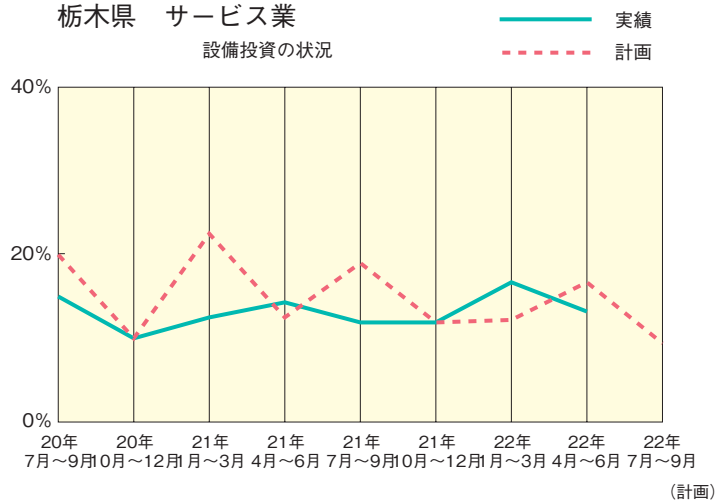


一設備投資の状況一

設備投資の状況 図21

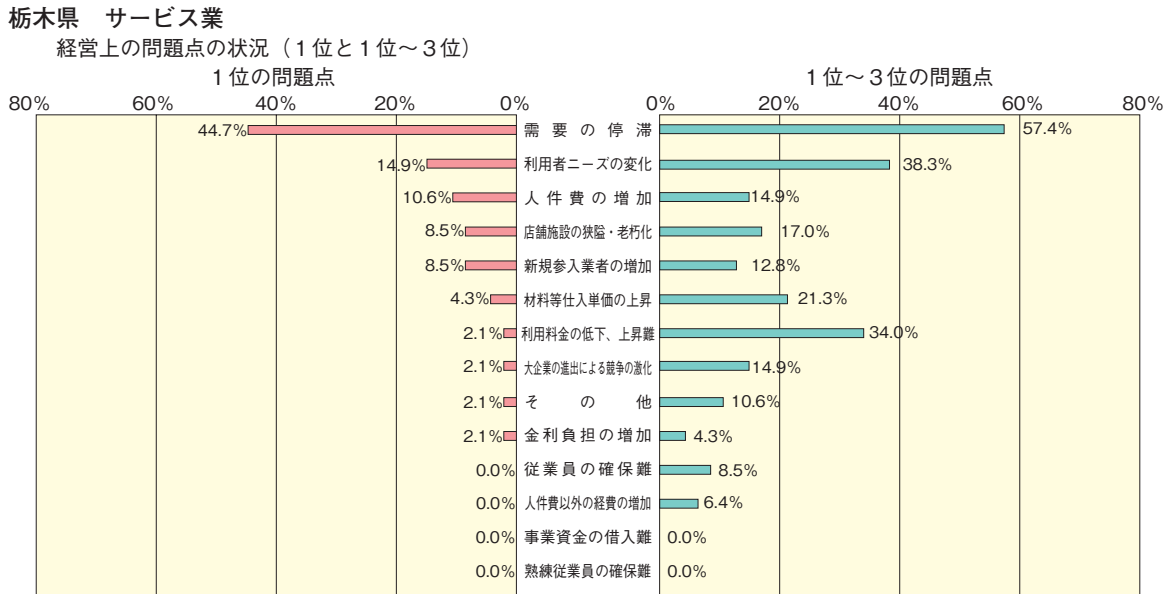
今期の設備投資の状況は、計画していた企業割合16.7%に対し、実施割合は13.2%であった。

来期に設備投資を計画している企業は9.4%である。



一経営上の問題点一

経営上の問題点の状況 図22



1位の問題点を見ると、「需要の停滞」がトップに挙げられる。また、1位～3位の問題点を見ると、「利用者ニーズの変化」「利用料金の低下、上昇難」が続いている。

## 【調査対象事業所の内容】

### 〈製造業〉

#### 業種別内訳 30事業所

業種	事業所数	割合%
食料品製造業	8	26.7
飲料・飼料・たばこ製造業	0	0.0
繊維工業	0	20.0
衣服・その他繊維製品製造業	1	3.3
木材・木製品製造業	1	3.3
家具・装備品製造業	1	3.3
パルプ・紙・紙加工品製造業	0	0.0
印刷・同関連業	1	3.3
化学工業	1	3.3
プラスチック製品製造業	3	10.0
窯業・土石製品製造業	2	6.7
金属製品製造業	3	10.0
一般機械器具製造業	2	6.7
電機機械器具製造業	2	6.7
輸送用機械器具製造業	4	13.3
精密機械器具製造業	0	0.0
その他の製造業	1	3.3

#### 従業員規模別内訳

従業員数	事業所数	割合%
2人以下	5	16.7
3人以下～5人以下	2	6.7
6人以下～10人以下	5	16.7
11人以下～20人以下	11	36.7
21人以下～50人以下	4	13.3
51人以下～100人以下	1	3.3
101人以上	2	6.7

### 〈建設業〉

#### 業種別内訳 27事業所

業種	事業所数	割合%
総合工事業	14	51.9
職別工事業	8	29.6
設備工事業	5	18.5

#### 従業員規模別内訳

従業員数	事業所数	割合%
2人以下	10	37.0
3人以下～5人以下	5	18.5
6人以下～10人以下	7	25.9
11人以下～20人以下	5	18.5
21人以下～50人以下	0	0.0
51人以下～100人以下	0	0.0
101人以上	0	0.0

### 〈小売業〉

#### 業種別内訳 40事業所

業種	事業所数	割合%
各種商品小売業	4	10.0
織物・衣服・身の回り品小売業	4	10.0
飲食料品小売業	16	40.0
自動車・自転車小売業	2	5.0
家具・建具・じゅう器小売業	0	0.0
その他小売業	14	35.0

#### 従業員規模別内訳

従業員数	事業所数	割合%
2人以下	30	75.0
3人以下～5人以下	7	17.5
6人以下～10人以下	2	5.0
11人以下～20人以下	0	0.0
21人以上	1	2.5

### 〈サービス業〉

#### 業種別内訳 53事業所

業種	事業所数	割合%
一般飲食業（一般・遊興）	15	28.3
宿泊業	5	9.4
運輸業	3	5.7
自動車整備業	6	11.3
洗濯・理美容業	15	28.3
その他サービス業	9	17.0

#### 従業員規模別内訳

従業員数	事業所数	割合%
2人以下	34	64.1
3人以下～5人以下	8	15.1
6人以下～10人以下	7	13.2
11人以下～20人以下	2	3.8
21人以上	2	3.8

---

第 1 2 4 回 中 小 企 業 景 況 調 査 報 告 書

---

平成 2 2 年 4 月 ~ 6 月 期 報 告

平成 2 2 年 7 月 ~ 9 月 期 予 想

平成 2 2 年 7 月 発 行

編 集 : 栃 木 県 商 工 会 連 合 会 経 営 の 見 え る 課

発 行 所 : 栃 木 県 商 工 会 連 合 会 栃 木 県 宇 都 宮 市 中 央 3 丁 目 1 番 4 号

TEL 028-637-3731 FAX 028-637-2875

印 刷 所 : (株) 松 井 ビ ・ テ ・ オ ・ 印 刷

---

